

法学部A方式Ⅰ日程・文学部A方式Ⅱ日程・経営学部A方式Ⅱ日程

## 3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～24	日 本 史	26～36
世 界 史	38～53	地 理	54～64
数 学	66～68		

## 〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学は志望学部・学科によって解答する問題が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。なお、以下の注意事項も参照すること。
  - ・ 解答を導く途中経過も書くこと。
  - ・ 解答はおもて面に記入すること(裏面は採点の対象にならない)。
  - ・ その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
  - ・ 定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

## マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

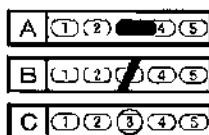
## 記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかまさないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

# (世界史)

〔I〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

バラ戦争による封建貴族の没落をうけて登場したテューダー朝のヘンリ7世は、星室庁裁判所を通じて王権に逆らう動きを厳しく抑えることなどによって、絶対王政の基礎を築いた。続くヘンリ8世は自身の離婚問題を機に、カトリック教会から離脱し、議会の支持のもと、国王を首長とするイングランド独自の教会を設立し、によって没収した領地を、王の直轄下におき、売却して財をなした。

エリザベス1世の治世下には、によって国教会体制が最終的に確立し、イギリスの絶対王政は最盛期を迎えた。また16世紀になると、重商主義政策と結びついて毛織物工業が目覚ましく発展し、エリザベス1世はこのような背景のもと、海外貿易の振興をはかった。独身で子供のなかったエリザベス1世が没すると、ステュアート家のジェームズが王位を継承し、イングランド王ジェームズ1世として即位した。を信奉するジェームズ1世は、テューダー朝の国王たちと異なって議会を無視する専制政治を行い、国教会を絶対王政の柱とした。当時のイングランドでは、国教会体制に不満を持つが議会で力を増していたため、王権と議会との対立は一層深まった。

ジェームズ1世を継いだチャールズ1世もまた、父王の政策を改めなかったため、議会は1628年に権利の請願を可決して王に認めさせたが、結局、チャールズ1世は約束を守らず、ついには議会を解散した。その後、長く議会は開かれなかったが、1640年になり、チャールズ1世は臨時課税の必要に迫られ、議会を開かざるを得なくなった。この年、議会は二回招集されることになったが、臨時課税への承認が得られないばかりか、王の悪政が非難され、王党派と議会派の対立を顕在化させる結果となった。この両者の対立は次第に激化し、1642年には内乱状態になってしまった。最終的にはオリヴァー・クロムウェルの率いる議会派の勝利に終わり、クロムウェルはチャールズ1世を処刑して、共和政を樹立した。だが、

クロムウェルは軍事的独裁を進めたため、やがて国民の不满を引き起こし、彼が死ぬと、王政が復活することとなった。亡命先の大陸から戻り王位についたチャールズ2世は、専制政治を敷き、カトリックの復活をはかったため、議会は  を制定して官吏と議員を国教徒に限り、  によって王権による不法な逮捕から国民の人権を守った。

当時、議会内には、カトリックである王弟ジェームズの王位継承をめぐる、これを容認する  と、これに反対する  という二つの党派が生まれていたが、即位したジェームズ2世は、議会の存在を無視し、またカトリック化政策を進めたので、議会は一致して、1688年に王の長女でプロテスタントのメアリとその夫であるオランダ総督オラニエ公ウィレムを招いた。両者は議会で可決された  を承認したうえで王位についた。また、この  は権力の章典として制定され、議会主権に基づく立憲王政の基礎とされた。

問1 空欄  ~  に入る最も適当な語句を、以下の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |              |          |
|--------------|----------|
| ア 王位継承法      | イ 権利の宣言  |
| ウ 救貧法        | エ 航海法    |
| オ 国王至上法(首長法) | カ 修道院解散法 |
| キ 審査法        | ク 人身保護法  |
| ケ 統一法        | コ ナントの勅令 |

世界史

問2 空欄  ～  に入る最も適当な語句を、以下の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |         |               |
|---------|---------------|
| ア 王権神授説 | イ 啓蒙思想        |
| ウ ゴイセン  | エ 合理主義        |
| オ 個人主義  | カ 国家主権        |
| キ 自然法思想 | ク 自由主義        |
| ケ 自由党   | コ 責任内閣制       |
| サ トーリ   | シ ピューリタン(清教徒) |
| ス 福音主義  | セ プレスビテリアン    |
| ソ ホイッグ  | タ 保守党         |
| チ ユグノー  | ツ 労働党         |

問3 下線部(a)について、テューダー朝を開いたテューダー家の説明として正しいものを、ア～オのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア ハノーヴァー朝の系統を継ぐヨーク家の一族である。
- イ ハノーヴァー朝の系統を継ぐランカスター家の一族である。
- ウ ハノーヴァー朝の系統を継ぐホーエンツォレルン家の一族である。
- エ プランタジネット朝の系統を継ぐヨーク家の一族である。
- オ プランタジネット朝の系統を継ぐランカスター家の一族である。

問4 下線部(b)について、以下のア～エの4つの文のうち、星室庁裁判所に関する説明として正しくないものはいくつあるか。正しくないものの合計数を解答欄にマークせよ。

- ア 貴族を裁く権限を有していた。
- イ 星室庁裁判所は百年戦争期から存在した。
- ウ 地方の行政や裁判を扱い、判事は無給の名誉職であった。
- エ その名称は、ウェストミンスター宮殿の「星の間」に因んでいる。

問5 下線部(c)について、宗教改革以前のイギリスのカトリック教会で最も権威があり、13世紀初頭にはその任免権が問題になった大司教が置かれた場所はどこか。ア～オのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア オクスフォード      イ カンタベリ      ウ ケンブリッジ  
エ ヨーク              オ ロンドン

問6 下線部(d)について、以下の文章のうち正しくないものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア ヘンリ8世は、自分の離婚や、国王が国教会の首長となることに反対したという理由で、トマス=モアを処刑した。  
イ エドワード6世は一般祈禱書を発布し、カルヴァン派の教義の一部をイギリス国教会に取り入れた。  
ウ メアリ1世は、カトリックの復活をはかり、イギリス国内のプロテスタントを弾圧した。  
エ カトリック教会の司教制は、イギリス国教会では主教制に改められ、主教は議会によって任命された。  
オ 1534年にヘンリ8世が制定・発布した法により、国教会は教皇から分離独立した。

問7 下線部(e)に関連して、以下のア～エの4人の人物のうち、エリザベス1世の治世下で行われたアルマダ戦争の戦闘に参加していない人物は何人いるか。参加していない人物の合計数を解答欄にマークせよ。

- ア ドレーク      イ ネルソン      ウ ホーキンス      エ ローリ

## 世界史

問8 下線部(e)に関連して、以下のア～オの文章のうち正しくないものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア 15世紀以来、領主や地主が農民から農地を取り上げて生垣や塀で囲い込んで牧場にする囲い込み(エンクロージャー)が進み、トマス＝モアは自らの著作の中で「羊が人を食う」とこれを批判した。

イ 道具を備えた作業場に労働者を集めて、分業によって毛織物を生産するという方法が広まったが、これをマニユファクチュア(工場制手工業)と言う。

ウ 毛織物工業は、中世後期以来のイギリスの代表的産業であり、とりわけ農村部で発展した。

エ 囲い込みは16世紀のイギリスで最高潮に達し、多くの農民が土地を失い、その多くが浮浪者になったりして社会的不安が高まったが、政府はこの状況を放置していた。

オ 毛織物工業は、イギリスの繊維産業において長く主役の地位にあったが、18世紀後半には木綿工業にその地位を奪われた。

問9 下線部(e)について、ジェームズはイングランド王となる前にすでに王位についていたが、それはどの国の王位か。ア～オのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

ア アイルランド           イ ウェールズ           ウ オランダ

エ スコットランド       オ ベルギー

問10 下線部(h)について、以下のア～オの文章のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 権利の請願により、議会の同意無き課税を禁止することを求めた。
- イ 権利の請願により、無記名秘密投票の実施を求めた。
- ウ 権利の請願により、議会の同意無き法律の制定・廃止を禁止することを求めた。
- エ 権利の請願は、イングランドの自由の大憲章と呼ばれるマグナ＝カルタなど従来の法を完全に逸脱するものであった。
- オ 権利の請願は、法による支配をはじめて明文化した。

問11 下線部(i)について、以下のア～オの文章のうち正しくないものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア チャールズ1世がスコットランドに国教会制を強要したために起こった反乱を受けて、一回目の議会在が招集された。
- イ 一回目の議会在は三週間ばかりで解散させられたため、短期議会在と呼ばれる。
- ウ 二回目の議会在はチャールズ2世によって解散されるまで続いたので、長期議会在と呼ばれる。
- エ 一回目の議会在は、反乱の鎮圧にかかる戦費を調達するために招集された。
- オ 二回目の議会在は、戦争に敗れたチャールズ1世が賠償金を調達するために招集した。

## 世界史

問12 下線部(1)について、オリヴァー・クロムウェルについて記した下記の文章を読み、空欄  ～  に入る最も適当な語句を、以下の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

オリヴァー・クロムウェルは1640年の議会で議員として参加していたが、内乱状態になると、  と呼ばれる軍隊を創設し、戦果をあげた。これにならって議会派軍全体が改組されると、その副司令官となり、  の戦いで王党派に対し決定的な勝利を収めた。この後も王党派との戦いは続き、それはアイルランドやスコットランドへの征服活動にまで及んだ。一方、議会派内部には、クロムウェルの率いた  ，国王に妥協的な  ，最も急進的な  の三つの派があったが、クロムウェルは他の二派を排除していった。これらの戦いを経て、クロムウェルは強権的な傾向を強めていき、1653年に  という独裁的な地位に就き、死ぬまでその地位に就き続けた。

- |          |            |       |
|----------|------------|-------|
| ア 愛国派    | イ 国王派      | ウ 護国卿 |
| エ 黒旗軍    | オ 護民官      | カ 山岳派 |
| キ 終身統領   | ク 重装歩兵     | ケ 水平派 |
| コ 長老派    | サ 鉄騎隊      | シ 独立派 |
| ス ネーズビー  | セ ヘースティングズ | ソ 平民派 |
| タ レキシントン |            |       |



## 〔Ⅱ〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

モスクワから膨張を始めたロシア勢力の東漸は、シベリア諸河川を伝いながら17世紀半ばには早くもオホーツク海に達した。この後ロシア勢力は、カムチャツカ半島、チュコト半島を経て大陸間海峡に名を残す探検家の活躍で北米大陸に達し、ここにロシア領アメリカが成立した。<sup>(1)</sup>この間ロシアは、シベリアでは清朝との間で国境線画定のための条約を締結した。<sup>(2)</sup>また太平洋西端の島国である日本にも交易を求めた。<sup>(3)</sup>

パーヴェル1世の時代には露米会社が設立され、ロシアの北米大陸での活動は本格化し、太平洋東岸を南下していった。しかし、設けた拠点には先住民による執拗な攻撃が加えられ、また帝国中心からあまりに遠隔だったこともあり、その経営は順調ではなかった。

他方、北米大陸では、18世紀初めから生起した世界規模の英仏対立<sup>(4)</sup>を背景に、一部のイギリス植民地がアメリカ合衆国として独立した。アメリカ合衆国は独立戦争、米英戦争を経て政治的にも経済的にも自立を強め、軍事的手段、経済的手段によって領土を拡大していき、<sup>(5)</sup>1867年にはアラスカをロシアから購入した。

こうしてロシア領アメリカは消滅することになったが、地理的なつながりを考えれば、アラスカはイギリスに売却されても不思議ではなかった。そうならなかった背景にはアジアにおけるロシアとイギリスの対立が存在した。<sup>(6)</sup>

この時期から、ロシアは沿海州に拠点を建設し、清朝の統治が混乱する中で<sup>(7)</sup>徐々に中国への浸透を進めていった。

問1 下線部(1)について、次の問いに答えよ。

- ① この大陸間海峡に名を残す探検家とは誰か。語群Aから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ② この探検家は1725年に最初の探検を命じられたが、この時の君主は誰か。語群Aから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

## 世界史

問2 下線部(2)について、次の問いに答えよ。

- ① 1689年にロシアと清朝が国境線条約を締結した場所はどこか。語群Bから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ② 1727年にロシアと清朝が国境線条約を締結した場所はどこか。語群Bから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

問3 下線部(3)について、次の問いに答えよ。

- ① 漂着日本人を帰国させるため1792年来日し、あわせて通商を求めた人物は誰か。語群Aから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ② ①の人物が日本に来航した時のロシアの君主は誰か。語群Aから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ③ ①の人物が来航した場所はどこか。語群Bから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

問4 下線部(4)について、次の問いに答えよ。

- ① 英仏の対立は世界各地に広がり、18世紀初めには北米大陸でも両国間の戦争が起こったが、この時のイギリスの君主は誰か。語群Aから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ② 1744年に北米大陸で始まった英仏間の戦争は、ヨーロッパのある国の継承問題が波及したものであるが、その国とはどこか。語群Bから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ③ ハドソン湾地方、ニューファンドランド等をイギリスに移管した条約を締結した場所はどこか。語群Bから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ④ 1757年、インドのベンガル地方においてイギリス勢力がフランス勢力を駆逐した戦闘の行われた場所はどこか。語群Bから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ⑤ ④の戦闘でイギリス勢力を勝利に導いた人物は誰か。語群Aから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

問5 下線部(5)について、次の問いに答えよ。

- ① アメリカ合衆国は、フランスからスペインに領有が移っていた南部の地域を、1819年にスペインから買収したが、その地域はどこか。語群Bから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ② アメリカ合衆国は、建国時の領土より西に位置する地方の一部を、1803年にフランスから買収したが、それに含まれる地域はどこか。語群Bから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ③ スペインから独立を果たしたメキシコとアメリカ合衆国との間では、1840年代に領土紛争から戦争が起こった。これに勝利したアメリカはメキシコから領土割譲を受けたが、それに含まれる地域はどこか。語群Bから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- ④ アメリカ合衆国において、19世紀中頃から西漸運動を正当化するために用いられた言葉とは何か。以下のア～オのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
- |   |          |   |                |
|---|----------|---|----------------|
| ア | ゴールドラッシュ | イ | ジャクソニアン＝デモクラシー |
| ウ | フェデラリズム  | エ | マニフェスト＝デスティニー  |
| オ | モンロー主義   |   |                |

## 世界史

問6 下線部(6)について、次の問いに答えよ。

- ① 19世紀に入って二度にわたるカージャール朝との戦争に勝利したロシアは、1828年に条約を締結し、エリヴァンなどを獲得するとともにカスピ海における軍艦保有と商船自由航行の権利を再確認した。この条約を締結した場所はどこか。語群Bから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
  
- ② ①の条約締結後、ロシアはカスピ海、シベリアを通じて中央アジアへの進出を強めた。一方、イギリスはインド支配への脅威を感じたため、中央アジアへの進出を図り、アム川からインダス川にかけての地域にあった王国を勢力圏にしようとした。この王国の首都はどこか。語群Bから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

問7 下線部(7)について、次の問いに答えよ。

- ① ロシアは、英仏と清朝の間の講和を調停した代償として、1860年に清朝と条約を締結し、共同管理であった地域の国境線を確定させた。この条約を締結した場所はどこか。語群Bから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。
  
- ② ロシアは、①の条約で国境線を画定し、沿海州に拠点都市を建設した。この都市とはどこか。語群Bから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

語群A

- |    |           |    |           |
|----|-----------|----|-----------|
| 1  | アレクサンドル1世 | 2  | アレクサンドル2世 |
| 3  | アン女王      | 4  | ウイリアム3世   |
| 5  | エカチェリーナ2世 | 6  | エリザヴェータ   |
| 7  | カムチャッカ    | 8  | クライヴ      |
| 9  | ゴンチャロフ    | 10 | ジェームズ2世   |
| 11 | ジェファソン    | 12 | ジョージ2世    |
| 13 | スコット      | 14 | デュプレクス    |
| 15 | ニコライ1世    | 16 | ピョートル1世   |
| 17 | ピョートル2世   | 18 | プチャーチン    |
| 19 | ベーリング     | 20 | ミハイル      |
| 21 | ムラヴィヨフ    | 22 | モロゾフ      |
| 23 | ラクスマン     | 24 | レザノフ      |
| 25 | ワシントン     |    |           |

語群B

- |    |           |    |           |
|----|-----------|----|-----------|
| 1  | 愛媛        | 2  | アムステルダム   |
| 3  | アラバマ      | 4  | ウラジヴォストーク |
| 5  | ウランバートル   | 6  | オハイオ      |
| 7  | オーストリア    | 8  | カーブル      |
| 9  | カリフォルニア   | 10 | キャフタ      |
| 11 | ゴア        | 12 | サマルカンド    |
| 13 | ジョージア     | 14 | スペイン      |
| 15 | トルコマンチャーイ | 16 | 長崎        |
| 17 | 根室        | 18 | ネルチンスク    |
| 19 | ファルツ      | 20 | ブラッシー     |
| 21 | フロリダ      | 22 | 北京        |
| 23 | ボンベイ      | 24 | ミズーリ      |
| 25 | ユトレヒト     |    |           |

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

チンギス=ハンによって創始されたモンゴル帝国は、遠征を重ねて東アジアからロシアに及ぶ広大な領域をその支配下に収めていった。これを受けてユーラシアの東西の交流は活発化した。プラノ=カルピニヤルブルックと<sup>(1)</sup>いう修道士の<sup>(2)</sup>モンゴルへの来訪は、当時の東西交流の活況を如実に物語っている。

しかし実態としては、広大なモンゴル帝国の全領域にわたって一元的な支配が徹底されていたわけではなかった。チンギス=ハンの息子などに率いられ各地に派遣・配置された軍隊は、それぞれに軍事権・行政権と支配領域を持っており、モンゴルのハンを頂点に戴きながらも、在地社会との結合を深めていくなかで、それぞれが独自性を有するようになっていったのである。こうして帝国の初期から存在した多元性は、子から孫へと世代が進むにつれてより顕著なものとなっていき、元朝の成立によって一つの終着点を迎えた。

モンケ=ハンが南宋遠征の途上で没すると、翌年、漢地支配に当たっていたフビライ<sup>(a)</sup>が自らの本拠地である開平府で独自にクリルタイを開催し、ハンへの即位を宣言した。これに対し、モンゴル本土ではアリクブケ<sup>(b)</sup>がハンへの即位を宣言した。両者のハン位をめぐる戦いは、漢地の経済力と人材を活用したフビライの勝利に終わったが、これは同時に「モンゴル本土のハンを頂点とした支配」という帝国の伝統が潰えたことを意味していた。この頃にはすでに南ロシア方面ではベルケ<sup>(c)</sup>が、イラン方面ではフラグ<sup>(d)</sup>が自立していた。中央アジア方面ではハイドウ<sup>(e)</sup>が反フビライ勢力を結集して戦争を開始したが、その戦いはフビライの死後まで続けられている。このように、フビライの時点でモンゴル帝国のハン(=元朝皇帝)は、帝国全体を実効的に支配する力を失っており、宗主権を有するだけの存在になっていたのである。

だが、東西間の活発な交流は維持され続けた。元朝ではモンゴル人・漢人に加え様々な出自の人が登用され、さらに重商主義的な政策により陸海の両ルートから多くの人・物が往来し、きわめて国際性の高い社会・文化が作られた。その影響は今日においても見ることが出来る。たとえば、北京の旧城内の伝統的な路地を胡同(フートン)と呼ぶが、これは元の時代のモンゴル語の「井戸」が語源である

と言われているし、北京の魏公村という土地にはウイグル人が多く住んでいるが、その端緒は元朝に登用されたウイグル人が住み始めたところにあると考えられている。さらに、中国で広く飲まれている白酒と呼ばれる蒸留酒も、元の時代にイスラーム世界から伝わった酒を起源にしていると言われている。また、その影響は日本にも及んでいる。たとえばイスラーム暦を参考に元朝で作られた授時暦は日本の江戸時代の暦にも影響を与えており、イスラーム世界からの影響を受けて元朝の下で作られた染付と呼ばれる磁器も、日本の磁器制作に影響を与えている。

このように元朝ではモンゴル人の支配の下で外来文化が重宝されたのだが、一方で漢人の文化が廃れたわけではなかった。商業の活況は都市を栄えさせ、庶民文化を成熟させたが、その中から元曲と呼ばれる歌劇や古典小説の名作が生み出されていった。また、フビライに仕えた画家によって復興された文人画は、元末四大家と呼ばれる画家達に継承され、その手法が確立されている。

しかし都市が繁栄し、モンゴル人の王侯が栄華を極める一方で、治水事業などの農業政策には不備が多く、農民からの収奪も苛烈で、度重なる異常気象も加わって、農民の貧困化が進んでいた。白蓮教徒を中心とした農民反乱が発生し、全国化すると、元朝の漢地での勢力は著しく衰え、漢地から撤退することになった。

問1 下線部(1)について、プラノ=カルピニをモンゴルに派遣した人物として正しいものを、ア～オのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |   |             |   |             |
|---|-------------|---|-------------|
| ア | インノケンティウス3世 | イ | インノケンティウス4世 |
| ウ | フィリップ4世     | エ | フリードリヒ2世    |
| オ | ルイ9世        |   |             |

問2 下線部(2)について、ルブルックが会見したハンとして正しいものを、ア～オのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |   |         |   |        |   |         |
|---|---------|---|--------|---|---------|
| ア | オゴタイ=ハン | イ | ガザン=ハン | ウ | チンギス=ハン |
| エ | フビライ=ハン | オ | モンケ=ハン |   |         |

## 世界史

問3 下線部(3)について、ウイグル人はウイグル文字を用いていたが、以下の①～⑤の文字のうち文字の系譜の上でウイグル文字と関係のない文字の組み合わせとして正しいものを、ア～オのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ① 西夏文字                      ② ソグド文字                      ③ パスバ文字  
④ 満州文字                      ⑤ モンゴル文字

- ア ①③                              イ ①⑤                              ウ ②③  
エ ①③④                          オ ②③⑤

問4 下線部(4)について、元曲の説明として正しくないものを、ア～オのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 大都を中心に発達したものを北曲という。  
イ 基本的に全編が文語で書かれている。  
ウ 『漢宮秋』は王昭君の物語を劇にした作品である。  
エ 『西廂記』は唐代の小説を基にしている。  
オ 『西廂記』の作者は王実甫である。

問5 下線部(5)について、このフビライに仕えた画家は王羲之の書をよくしたことで知られているが、彼はある王朝の皇帝の一族でもあった。その王朝として正しいものを、ア～オのうちから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 金                      イ 後晋                      ウ 宋                      エ 唐                      オ 遼

問6 下線部(a)～(e)の人物について、その生まれた家として正しいものを、ア～エのうちからそれぞれ一つずつ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア オゴタイ家                              イ ジュチ家  
ウ チャガタイ家                              エ トウルイ家



問7 下線部(A)について、この磁器の様式の上での特徴を簡単に述べよ。

問8 下線部(B)について、商業の発展を象徴する事象に紙幣の発行があるが、これに関わる下記の文章の空欄  ~  に入る適切な語を、それぞれ漢字二字で解答欄に記入せよ。なお、同じ語を二度以上用いてはならない。

唐宋時代を通じて最も広く用いられた通貨は  であったが、低額貨幣であり、重さもかさむため、高額の取引や遠隔地との取引には向かず、商業の発達とともに大きな不便を生じるようになり、手形制度が生み出された。唐代にはすでに  と呼ばれる送金のための手形制度が行われていたが、やがて手形は取引時の支払いにも用いられるようになっていった。北宋時代には、現在の四川省成都市で発行されていた  と呼ばれる手形の信用度が非常に高く、四川地方に広く流通していたため、政府がその発行権を独占し、法定の紙幣として機能させることとした。これが世界で最初の紙幣だと言われている。一方、現在の浙江省杭州市では  と呼ばれる手形が発行されていたが、南宋時代に政府が発行権を独占し、法定の紙幣として機能させている。金・元の統治下では  と呼ばれる紙幣が発行され、元のフビライは通貨をこれに一本化する政策をとっている。紙幣は財源を確保するためにも都合が良かったが、逆に紙幣の濫発が引き起こされ、経済活動を混乱させる元凶ともなった。そのため明の時代には秤量貨幣である銀にその地位を奪われることになった。

問9 下線部(C)について、白蓮教という信仰が農民反乱と深い関わりを持ったのはなぜか。句読点を含めて40字以内で説明せよ。

下書き用
